

# 6-2

## 個別対応とレクリエーションの必要性及びその意義

生きがいを見出し、生活の活性化へ

個別対応

レクリエーション

特別養護老人ホーム・きたくりつきりがおか北区立桐ヶ丘やまぶき荘そう

ケアワーカー・吉田尚子

東京都北区桐ヶ丘1-16-26

TEL : 03-5924-0150

E-mail : yamabuki@seirouin.or.jp

FAX : 03-5963-6931

URL : <http://www.seirouin.or.jp>

今回の発表の施設  
またはサービスの  
概要 10p

北区立桐ヶ丘やまぶき荘は、北区が設置し指定管理として社会福祉法人東京聖労院が運営する公設民営の施設で、平成13年5月に開設しました。明るい介護環境の中、家族の面会も多く、近隣の小中学校等の地域交流も盛んな施設です。

### 〈取り組んだ課題〉

- 生活の場の特養として、業務優先の介護から利用者優先の介護への見直し  
→業務改善の必要性
- 利用者の生活そのものの中に生きがいを見出し、生活の活性化
- 職員の個別対応・レクリエーションへの意識づけと周知徹底
- 五感を活用し、日常生活の楽しみを感じて頂く

### 〈具体的な取り組み〉

- 全利用者（36名）を対象に、レクリエーション時、利用者のアセスメントを実施  
→利用者別レクリエーション参加実施表の記入（H18.02～）
- 業務改善を実施し、個別対応・レクリエーションの周知徹底
- 職員に、それぞれの居室担当の利用者を対象とした「個別対応・レクリエーションのアンケート」を配布意識調査の実施（H18.04～）  
↓
  - ・アンケート結果をもとに分析を実施
  - ・全利用者を、①個別対応型②レクリエーション型③個別対応・レクリエーション混合型のグループに分類する
  - ・個別対応の内容検討（出前注文・外出・調理）
- 必要物品の購入（予算3万円）  
→調理用具・お菓子作りの材料の購入・化粧品
- 実施日程の調整
  - ・週一回、個別対応を実施予定（H18.06～）

### 〈活動の成果と評価〉

- 業務多忙という職員の意識があるため、個別対応の実施が難しくなってしまった
- 女性利用者に、ネイルアートを実施したところ、とても喜ばれていた
- 職員にレクリエーションの意識が高まった
- 少しずつではあるが、業務優先の介護が見直されてきた
- レクリエーション等の余暇活動時間が増えることにより、笑顔がみられ、利用者の表情が豊かになった

### 〈今後の課題〉

- 職員の人数が少なくても、実施可能な個別対応の再検討
- 実施回数や曜日設定を変更し、確実に個別対応が実施できるように努める